



デイリージーザスニュース #003

イエスの神としての永遠の存在

イザヤの受肉前のイエスのビジョン

イザヤ 6.1-13; ヨハネ 12.41

=====

1 ウジヤ王が死んだ年に、私は主が高く崇高な御座に座しておられるのを見た。その衣のすそは神殿に満ちていた。2 その上にはセラフィムがいて、それぞれ六つの翼を持っていた。彼らは二つの翼で顔を覆い、二つの翼で足を覆い、二つの翼で飛んでいた。3 そして彼らは互いに呼びかけ合った。

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主。

全地は彼の栄光に満ちている。」

4 彼らの声が聞こえると、戸口の柱や敷居が揺れ、神殿は煙で満たされました。

5 「ああ、私は災いです！」と私は叫びました。「私は破滅しました！私は汚れた唇の人間であり、汚れた唇の民の中に住んでいますが、私の目は万軍の主である王を見たのです。」

6 すると、セラフィムのひとりが火ばさみで祭壇から取った燃えさしを手に持ち、わたしのところに飛んで来て、7 それでわたしの口に触れ、こう言いました。「見よ、これがあなたの唇に触れたので、あなたの咎は取り去られ、あなたの罪は償われた。」

8 そのとき、私は主の聲がこう言うのを聞いた。「*だれを遣わそうか。だれがわれわれのために行くだろうか。*」

そこで私は言いました。「ここに私がおります。私をお遣わしてください。」

9 彼は言った、「*行ってこの民に告げなさい。*」

「いつも聞いてはいても、決して理解しない。

いつも見ていても、決して認めない。 10

この民の心を鈍くしなさい。

耳を鈍らせる

目を閉じてください。

そうしないと、目で見ることができないからです。

耳で聞き、

心で悟り、

立ち返って癒されるのです。」 (NIV)

Jイザヤはイエスの栄光を見て、イエスについて語ったので、こう言いました。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルーク = ^L、ジョン = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、*赤い斜体はイエスの言葉を示します。*

コンテキストダイジェスト	
位置	のソロモン神殿
時間	紀元前800年頃
の生涯の段階	ステージ 1: 神としての永遠の前世
第1章	イエスの永遠の存在
セクション #003	イザヤの受肉前のイエスのビジョン

今日の朗読は、旧約聖書におけるイエスの受肉前の出現の1つについて説明しています。これらの受肉前の出現を解釈するのは少し難しいので、今日の考察はこれらの聖句を簡単に考察することから始めます。

旧約聖書におけるイエスの受肉前の三度の出現は、主ご自身によって言及されています。したがって、これらが受肉前のイエスの真正な三度の出現であることに疑問の余地はありません。さらに、旧約聖書には「主の御使い」についての言及が他にもありますが、これもイエスのようです。

。「主の御使い」は主の特定の「使者」（「天使」の意味）であり、旧約聖書の他の天使との遭遇（「天使」と呼ばれています）とは異なります。定冠詞「天使」は、他の典型的な天使とは異なる特別な使者を指すために使用されています。

「主の御使い」の代表的な例は、出エジプト記3章の燃える柴でのモーセへの出現と、ヨシュア記5章13～15節のエリコの外のヨシュアへの出現です。どちらの場合も、「御使い」は主として召使に話しかけ、礼拝を受け、地は聖なる地であるので男たちにサンダルを脱ぐように指示します。さらに、燃える柴で神」。の特別な名前である主の御名が明らかにされました主の御使い」が登場するこの2つの場面は、確かにイエスが受肉する前に現れたように見えます。旧約聖書には、このような場面が他にもあります。

DAILY JESUS NEWS では、イエスの受肉前の3つの具体的な出現について取り上げています。この投稿（#003）で1つ、次の投稿（#004）で2つです。これらは、イエスが受肉する前に、神としての永遠の神聖な性質で機能していたことを示しているため重要です。この資料は、イエスの生涯の第1段階、つまり神としての永遠の前存在にふさわしいものです。

「主の天使」について言及している箇所も、イエスの受肉前の出現であるというのが筆者の意見であり信念です
しかし、この見解はイエスや使徒たちによって直接確認されていないため、DAILY JESUS NEWS の聖書本文を構成するイエスの完全な聖書的生涯には主の天使」に関する内容は含めていません。

イエスが、イザヤ書の最も重要な箇所のうち2つが自分について言及していると明確に主張したのは驚くべきことです。それは、イザヤ書6章のイザヤの呼びかけにおけるイエスの YHWH (英語訳では大文字の「主」と訳されています) としての出現と、イザヤ書52章13節から53章12節の「苦難のしもべ」の箇所です。

イエスは、2年間もたとえ話を使っていなかった後に、初めてたとえ話を自分の教えの宣教に取り入れた理由を説明する際に、イザヤ書6章9-10節に言及しました。（マタイ13章14-17節）。イエスは、イザヤの預言を、彼のメッセージを拒否していたパリサイ人やその他の人々に直接適用していました。イザヤ書6章で、イザヤが「高く上げられた」主を見たのは、イスラエルがメシアのメッセージを拒否したことを説明する6章9-10節の言葉を語った主でした。言い換えれば、イエスは受肉前の状態でイザヤ書6章で主としてそれらの言葉を語り、その後、マタイ13章14-17節で受肉してそれを適用しました。

使徒ヨハネも、今日の朗読を締めくくる福音書の中で、同じことを書いています。「イザヤはイエスの栄光を見て、イエスについて語ったので、こう言った。」ヨハネが言おうとしたのは、イザヤが召命の全経験においてイエスの栄光を見たということである。主が御座に座り、セラフ

イムの崇拝を受け、叫び続けた。」「**聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主。その栄光は全地に満ちている。**」ヨハネによれば、これがイザヤがイエスに見た栄光です。それはイエスの栄光、つまり創造の証しを通して地球を満たすヤハウエの栄光でした。

イエスはルカ22章37節の苦しみのしもべの箇所を自分自身にも当てはめ、ヨハネ12章37-41節のヨハネの箇所も当てはめました。

「あなた方に言いますが、私について書かれていることは必ず実現します。」そして彼は犯罪人の一人に数えられ、『（イザヤ53:12）私に関することはすべて成就する。」ルカ22:37

イザヤがまったく予期していなかったイエスが王座に座するという幻は、聖書の中で最も強烈な礼拝の場面の一つです。それは幻であったにもかかわらず、イザヤが次のように言うほど現実味を帯びていました。

「ああ、私は災いです！」と私は叫びました。「私は破滅しました！私は汚れた唇の人間であり、汚れた唇の民の中に住んでいますが、私の目は万軍の主である王を見たのです。」

玉座に座る主、イエスの神性の宣言は、イエスが天使や他の天上の存在を創造した瞬間から天国で受けてきたのと同じ種類の崇拝でした。これは、三位一体の第二位格である神としての地位を認めるものであり、イエスは受肉して人間性を引き受けるために一時的にそれを放棄し、卑しく従順な奴隷の姿をとり、十字架の死に至るまでそうする覚悟でした。

イザヤが見た受肉前のイエスの幻は、イエスの永遠の神性を確証しています。それはイエスの神性告白、「私の主、私の神」を予示しており、イエスの復活後、すべてのキリスト教徒の標準的な告白となりました。イザヤが幻の中で見た全能の神である主のイエスは、聖書によれば、私たちが彼の完璧な人生に基づいて私たちの主、神として告白するイエスと同一のイエスです。

応用：

が見たイエスの幻は偉大なものでしたが、聖書に記録されている私たちの主の生涯の現実とは比べものになりません。私たちは、主について記されたすべての言葉、行動、模範の中に主の栄光を見ることができます。

私たちは、イエスの御言葉にあるあらゆる場面や言葉に、敬虔な礼拝と畏敬の念をもって接する必要があります。聖書に記録されているイエスの生涯のあらゆる側面を巡る旅を始めるにあたり、今日は時間を取って、主の生涯を学ぶことによって主の無限の栄光を理解できるよう、聖霊の啓示を求めて祈ってください。

すべては礼拝であるべきです。単なる情報を主への愛と礼拝に変える聖霊の力です。